

2025年度『経営情報学論集』執筆・投稿規定

経営情報学研究科の教育研究上の目的は経営学と情報学とを有機的に一体化させ、起業家精神、事業展開力及びマネジメント力を備えた高度な専門職業人と、国内外の教育研究機関で教育・研究活動が展開できる人材を養成することである。研究者として自立し研究活動に必要な高度な研究能力を涵養するために、経営情報学研究科では年に一度論集を作成しその研究成果を発表する場を提供している。

『経営情報学論集』に論文その他が掲載されるためには、指導教授と相談し投稿アンケートに記入した上で「城西国際大学学会学術誌投稿希望票」を提出しなければならない。

論文は、高度な専門性を備えたものでなければならず、学術上对外発表するに値するものと認められるものでなければならない。よって審査委員による厳正な審査を受けなければならない。許可を得た論文は城西国際大学大学院経営情報学研究科のホームページに掲載する。また希望者には実費負担の上、抜刷を発行する。

1. 投稿有資格者

本誌への投稿有資格者は、「城西国際大学経営情報学研究科学術雑誌に関する規約」第2条に定める者とする。

2. 投稿の申込

投稿を希望するものは指導教授の指導と許可を受けたのちに、投稿アンケート（Microsoft Forms）に必要事項を記入し提出すること。

<https://forms.cloud.microsoft/r/v5Tjyv46H4>

3. 投稿原稿の制限と区分

1) 投稿原稿は、初出のものを原則とし、活字として公表されていないものに限る。（二重投稿の禁止）なお、ホームページに公開したものは既発表とみなす。

2) 原稿の投稿区分は、研究論文、研究ノート、その他（研究・調査報告、事例紹介、抄録、書評、論評、翻訳紹介、プロジェクト紹介、エッセイ、学会報告、大学院研究活動報告など）とし、以下の基準を満たしていなければならない。

①**研究論文**：ある研究テーマのもとに論理的分析と考察を経て完成された論考でなければならない。研究テーマ、テーマ設定の目的、論旨展開の方法、本論、結論、注および参考文献を網羅していること（査読あり）。

②**研究ノート**：研究テーマの紹介を主な目的とし、結論に関する見通しが示されていないと見なされる。また、本稿に投稿された研究ノートに関しては、後日論文に発展させ、発表することを原則とする。但し、発表の媒体は本誌に限定されることはない（査読あり）。

③**その他**（研究・調査報告、事例紹介、抄録、書評、論評、翻訳紹介、プロジェクト紹介、エッセイ、学会報告、大学院研究活動報告など）（査読なし）。

3) 原稿は、原則として日本語または英語で書かれたものとする。

4) 投稿原稿の形式は、原則、編集委員会によって指示された様式に即し作成しなければならない。

4. 原稿の作成

原稿はパソコンを使用し、以下の通りに作成すること。

1) 紙数制限

応募原稿は、ワープロ（Microsoft Wordが望ましい）による横書きで、A4版サイズ紙に1頁40文字×34行=1,360文字程度を標準とする。

①日本語で作成する場合

（注・図表を含まない、大幅に超過したものは掲載できない）

研究論文：12,000字から20,000字程度

研究ノート：原則として8,000字以上

推薦レポート：原則として8,000字以上

推薦レポート以外のその他の区分：編集委員と協議して決定する

②英語で作成する場合

（注・図表を含まない、大幅に超過したものは掲載できない）

研究論文：5,000語から84,000語程度

研究ノート：原則として3,500語以上

その他：編集委員と協議し決定する

2) 書式

①原稿の区分：12pt MSゴシック

上下二重線 太字左揃え

②タイトル：14pt、サブタイトル：10.5pt MSゴシック 太字 中央揃え

日本語タイトルの場合は英語タイトル、英語タイトルの場合は日本語タイトルを記載する。

③名前：12pt MSゴシック 中央揃え

④基本構成：章・節・項の示し方

- (1) 章：12pt MSゴシック 太字 章の前後は一行あける
節：10.5pt MSゴシック 節の前は一行あける
項：10.5pt MSゴシック 項の前は一行あける
- (2) 章・節・項は、下記のように付番する（番号のない章・節・項は設けない）。

(例) 4 _____
4. 1 _____
4. 1. 1 _____
4. 1. 2 _____

⑤本文：10.5pt MS明朝 左揃え

⑥引用文：9pt MSゴシック 改行 文頭は3マスあけ、以降2マスあける。

⑦数字：横書きの場合は半角アラビア数字に、縦書きの場合は漢数字に統一する。

⑧ページ数：下段中央揃え

⑨文章表記：

- (1) 横書き、新かなづかい、常用漢字使用を原則とする。
- (2) 本文の句読点は、原則として、句点（。）と読点（、）を使用する。

⑩引用：適切な引用がなされていない場合は掲載を許可しない。

引用の表記方法の詳細については以下を参考に指導教員等の助言や指示に従うこと。

(1) 直接引用は「 」で示し、引用箇所の出典を文中に示す。異なる言語の文を引用するときはその言語の表記法に従って引用する。

例) 田中(1988: 47)は戦略について「……………」と述べている。

(2) 間接引用はどこからどこまでが引用箇所であるかわかるようにする。出典を参照できる情報を本文中に記す。出典の一部を間接引用したときは、当該ページも示す。出典全体のテーマや結論を間接引用した時は、この限りではない。

例) 田中(1988)によると、日本の通商政策の特徴として・・・という点があるという。

田中(1988: 47)では、通商政策における戦略的自律とは・・・と定義している。この点に関しては……………という説が有力である。(田中, 1988)

⑪注：

注の表記方法の詳細については以下を参考に指導教員の助言や指示に従うこと。Wordの脚注機能を使い、本文の後、参考文献の前に一括とし、(1), (2), ……の通し番号を付し、下のように表記する。

【注】 9pt MS明朝 左揃え

〈例〉〈本文の中の付番〉

……これは翁の心を平穩にするかぐや姫に重ねることができる⁽¹⁾。……

【注】

(1) なお、釈尊誕生後の事跡や伝説は、古相といったモチーフを……

⑫参考文献：

参考文献の表記方法の詳細については以下を参考に指導教員の助言や指示に従う。なお、本文中に引用記載のない文献は掲載しないこと。

注の後とし、洋文献（ファミリーネームのアルファベット順）、和文献（著者氏名の50音順）の順に記載する。

【参考文献】 9pt MS明朝 左揃え

〈単行本の場合〉

* 日本語文献：著者名 出版年『タイトル』出版社

* 英語文献：著者名 出版年 “タイトル”（イタリック体）出版社

（半角文字と半角数字を使い、その間に半角スペースを入れる）

* 同一著者の文献が2冊以上ある場合、著者名の箇所を——とする。文献が2行にわたる場合、2行目ははじめ全角4マスあける。

〈雑誌・論文集の場合〉

* 日本語文献：著者名 出版年「論文名」『雑誌・論文集名』巻（号）雑誌・論文集発行期間 ページ

* 英語文献：著者名 出版年 “論文名” 雑誌・論文集名（イタリック体）巻（号）ページ

文中での文献の参照にあたっては、著者名、発行年を次のような要項で、本文中にカッコ書きする。（⑩も参考に）

(1) 単著の場合：(Foster, 1992)

（長谷川, 1937）

(2) 2名による場合：(Johnson and Kaplan, 1987), (津曲・松本, 1972)

(3) 3名以上の場合：(Chow et al., 1995), (太田ほか, 1963)

(4) 同時に複数文献を引用・参照する場合：

(Cooper, 1995; Young and Selto, 1991) 著者名 アルファベット順

(中西, 1962; 番場, 1968; 溝口, 1981) 著者名 50音順

(5) 同一著書の文献を複数引用・参照する場合（出版年順）：

(Merchant, 1988, 1990)

(松本, 1959, 1961, 1963)

〈新聞記事の場合〉

*記事テーマ、発行年/月/日/曜日、新聞名・朝夕刊の別、版数（ページ）引用段
〈インターネット〉

*サイトの運営主体（記事の日付）情報テーマ サイトURL 情報入手日

⑬図表：

図表の使用や引用については以下を参考に指導教員の助言や指示に従うこと。

*図表は、図は下部に、表は上部に通し番号とタイトルを付けて本文中にそのまま入力・配置する。

（例）図1 タイトル（図の下に置く）

表2 タイトル（表の上に置く）

*引用した場合は、その出典を図表の下に明記する。著者が作成した場合はその旨を明記すること。

*図表の作成に当たっては原資料をそのまま貼り付けること（コピーすること）は厳禁する。

3) 論文要旨を名前の次に記載し、キーワードを5点以内記載する。

4) なお、横書き・縦書きの別を含めて、印刷の様式は編集委員会が決定する。

また、記述スタイルの統一を図るため、文章、かなづかいなどについて、編集委員会が修正することがある。

5. 研究倫理について

1) 「城西国際大学人を対象とする研究倫理に関する規定」

2) 「城西国際大学における公正な研究活動の推進に関する規定」

3) 一般社団法人公正研究推進会（APRIN）のeラーニングプログラム

投稿者は1) 2) を遵守し、3) のプログラムを投稿までに修了していなければならない。また投稿年度は修了証の有効期間内でなければならない。

4) 指導教授の指導のもとiThenticateなどで盗用・剽窃がないことを確認してから投稿しなければならない。確認した旨を論文提出時に記載すること。

6. 原稿の投稿

1) 査読を必要とする研究論文及研究ノートの初稿投稿提出はアンケート投稿後から可能であり、投稿締切を9月29日（月）とする（厳守）。

査読を必要としないその他の投稿締切は10月27日（月）とする。

投稿者は初稿投稿以前に、各自、指導教員へ投稿する内容についての報告を行い、指導教員の了解のもと、投稿しなければならない。

2) 投稿先

締切日までに、データをメールで編集委員会に送ること。

提出先のアドレス等については投稿予定者に別途通達する。

7. 掲載原稿の採択

掲載の可否は、研究科専任教員の査読の結果と評価をもとに編集委員会が決定する。査読は氏名を削除した原稿で行う。なお、査読の結果により、投稿の区分が変更や内容の修正など求める場合がある。再査読の場合もあり、それぞれの期日までに修正原稿を提出しなければならない。また内容によっては不採択の場合がある。

査読終了後に掲載が決定し次第、編集委員より投稿者および指導教員に掲載決定の通知を行う。

8. 校正

投稿者の校正は初稿のみとする。但し、組版面積に影響を与えるような改変や組み換えは一切認めない。

9. 質問の受付

本誌への投稿・執規定に関する問い合わせ先は編集委員会とする。

10. 編集委員会

2025年度の編集委員会は次の編集委員をもって構成する。

編集委員 ◎渡邊 修朗 wnobuo@jiu.ac.jp 七井 誠一郎 nanai@jiu.ac.jp

○神余 崇子 kanamaru@jiu.ac.jp 石原 啓次 kishi@jiu.ac.jp

2025年6月改訂：この規定は第15号より適用する。